

厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)
分担研究報告書

在日外国人における感染症の情報提供と行動に係わる文献による研究

研究分担者 城川美佳 富山大学医学部公衆衛生学講座

研究要旨： 日本に中長期間滞在している外国籍・諸外国出身の居住者（以下、在日外国人）への感染症情報の提供と支援体制に関する先行研究について、文献を収集し、その内容を検討した。結核治療に関連した文献が散見された。一時帰国も含めた治療中断の課題、帰国後の治療可能な医療機関等の情報ニーズが認められた。

A . 研究目的

感染症情報に対して情報弱者の1群と考えられる在日外国人への情報ニーズについて、先行研究を収集して検討した。

B . 研究方法

調査対象は、日本国内を対象とした在日外国人の感染症に関連した先行研究である。

医学中央雑誌 WEB 版を用いて、「在日外国人」「感染症」をキーワードとして2009 年以降に発表された論文を検索した。検索式は、「(((外国人/TH or 在日外国人/AL) and (感染/TH or 感染症/AL))) and (DT=2009:2014 and (PT=症例報告除く) and (PT=原著論文,会議録))」である。これによって抽出された論文数は66 件であった。

抽出された論文から、研究者が抄録、本文を用いて、在日外国人の感染症情報ニーズに関連する論文を選択し32 件を得た。

収集した論文から、在日外国人の感染症情報ニーズについて、検討した。
(倫理面への配慮)

本調査は、個人の情報を用いたものではないため、医学研究の倫理規定に抵触しない。

C . 研究結果

1 . 文献の概要

文献は、1)実態を把握したもの、2)知識・理解を把握したもの、に2群された。

多くの文献で取り上げられていたのは、結核、およびHIV/AIDSに関連したものであった。また、寄生虫疾患に関連するものも散見された。結核に関連した文献には、実態把握、治療継続に関連した情報ニーズ、対策などがあった。

2 . 結核の治療・情報ニーズ・対策

在日外国人の結核罹患と治療中断について、日本結核病学会国際交流委員会が2008年に実施した調査では、保健所に対応した826例の結核治療事例のうち、一時帰国も含めた治療途中の帰国が17.4%であった。治療中断による多剤耐性結核の増加、帰国後での治療継続に対する不安など、日本での治療完了が重要であるが、患者教育、

治療継続に対する理解向上、帰国後の治療可能な医療機関等の情報ニーズが認められた。

こうした在日外国人の結核患者に対しては、いくつかの自治体が独自の支援体制を計り、その報告も散見されていた。

D . 考察

日本国内で実施された在日外国人の感染症に関連した先行研究では、1)日本に発生数が少ない感染症の輸入例や集団発生、り患状況に関連した文献、2)結核・HIV/AIDSのような世界的に課題とされている感染症の治療継続に関連した文献、3)その他、に分類できた。特に2)において、患者自身の疾患の理解、情報提供とそのため医療通訳や相手国との連携が示唆されていた。一方で、感染症に対する情報提供については、医療通訳を利用した患者教育についての考察に終始していた。

E . 結論

今後、健常な在日外国人を対象とした感染症情報のニーズと対応について、検討する必要がある。

F . 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G . 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

